



こちよいサンバがココロを解放する。  
世界の注目都市リオデジャネイロから最新の熱波のリズム!

音楽大国ブラジルから、新しいサンバの波

# スルル・ナ・ホーダ

*Sururu na Roda*

出演

スルル・ナ・ホーダ

ニルゼ・カルヴァーリョ (歌、バンドリン、カヴァキーニョ)  
シルヴィオ・カルヴァーリョ (歌、カヴァキーニョ、パーカッション)  
ファビアーノ・サレック (歌、パーカッション)

ほか、バンド4名 (ドラム、7弦ギター、ベース、フルート)

予定曲目

愛のサンバは永遠に (Não Deixe o Samba Morrer)、枯れ葉のサンバ (Folhas Secas)、  
シダーチ・マラヴィリョーザ (Cidade Maravilhosa)、想いあふれて (Chega de Saudade)、  
イパネマの娘 (Garota de Ipanema)、チコ・チコ・ノ・フバー (Tico Tico no Fuba)、  
ブラジレイリーニョ (Brasileirinho)、ほか

制作協力: 株式会社ラディーナ

公演日程 (2014年)

12月3日(水) 6:30 p.m. オリックス劇場

●入場料金: S席¥5,000 A席¥4,500 <税込>

12月4日(木) 6:30 p.m. 文化パルク城陽プラムホール

12月9日(火) 6:30 p.m. 奈良県橿原文化会館大ホール

●入場料金: ¥5,000 <税込>

12月5日(金) 6:30 p.m. 神戸国際会館こくさいホール

●入場料金: S席¥5,000 A席¥4,500 B席¥4,000 <税込>

主催: MIN-ON、(公財)城陽市民余暇活動センター(12/4公演)

後援: 駐日ブラジル連邦共和国大使館

お問い合わせ・チケットのお求めは

公演事務局 ☎06(6966)8000

チケットぴあ ☎0570(02)9999 [Pコード232-201]

ローソンチケット ☎0570(084)005 [Lコード54520]

イープラス <http://eplus.jp/>

<オリックス劇場> 阪神プレイガイド ☎06(6347)6510

チケットセブンプレイガイド梅田店 ☎06(6360)6305

<文化パルク城陽> 文化パルク城陽 ☎0774(55)1010 アル・プラザ城陽 ☎0774(56)2600

イズミヤ大久保店 ☎0774(52)5500 城陽市観光協会(JR城陽駅前) ☎0774(56)4029

JR宇治駅前観光案内所 ☎0774(22)8783 宇治市観光センター ☎0774(23)3334

青谷コミュニティセンター ☎0774(53)8273 ケイネット平和堂京田辺店 ☎0774(65)2109

<神戸国際会館> 神戸国際会館プレイガイド ☎078(230)3300

三宮・阪神プレイガイド ☎078(221)6030

<奈良県橿原文化会館> 奈良県橿原文化会館 ☎0744(23)2771

クラモレコード ☎0743(62)3363

<http://www.min-on.or.jp/>

※当公演は、小学生未満のお子様のお断りいたします。



音楽大国ブラジルから、新しいサンバの波

# スルル・ナ・ホーダ

*Suruu na Roda*

ブラジル・リオデジャネイロの都心に位置する歓楽街、ラバ地区は20世紀の前半から中盤にかけてサンバの中心地として栄え、夜な夜な大勢のサンバ人が集っていた。その後、街が荒廃し治安も悪化した。今世紀に入って一気に再開発が進み、大小無数のクラブやライブハウス、レストランやバーが次々にオープン、週末ともなれば車道にまで人があふれ、明け方まで賑わう、リオきっての夜遊びエリアとなった。と同時に大勢の音楽家やグループがラバを拠点に活動を行ない、若い世代による新たなサンバのムーブメントが誕生した。その代表的な存在のグループが、スルル・ナ・ホーダだ。

スルル・ナ・ホーダは2000年に結成された。ラバ地区のライブハウスで活動を始め、2001年にファースト・アルバムを発表した。中心メンバーのニルゼ・カルヴァーリョは10代の頃から天才バンドリン少女(注: バンドリンはブラジル産マンドリン)と騒がれていた。

90年代には長期間、日本に滞在してシュラスコ料理店のハウスバンドで歌うなど、日本との縁も深い。2013年に発表したライブ・アルバムが評判を呼び、2014年には「第25回ブラジル音楽賞」で最優秀サンバ・グループに選ばれた。まさに今、ノリにのっているグループだ。

スルル・ナ・ホーダは伝統的なサンバの名曲を、現代人の発想と感受性を通じて今の時代にアップデートし、自分たちのオリジナル曲やラバに集う同世代の仲間たちが作った新曲も歌い、サンバの豊かな水脈に根ざしながらも決して懐古趣味ではない現在進行形のサンバを追求している。彼らが歌うのは、人々の日常生活の中から生まれた、人々の喜怒哀楽の感情を描くサンバ。だから言葉がわからなくても楽しめ、とても親しみやすい。筋金入りのライブ・バンド、スルル・ナ・ホーダがつくるサンバのホーダ(輪)の中に入り、至福の時を共有しよう。

中原 仁(音楽・放送プロデューサー)

## 「スルル・ナ・ホーダ」プロフィール



ファビアーノ・サレック  
(歌、パーカッション)



ニルゼ・カルヴァーリョ  
(歌、バンドリン、カヴァキーニョ)



シルヴィオ・カルヴァーリョ  
(歌、カヴァキーニョ、パーカッション)

リオデジャネイロのサンバ再生で最も重要な地区ラバ。そのラバを代表するグループがスルル・ナ・ホーダだ。2000年に当時学生だったメンバーが集まり、歌とカヴァキーニョのニルゼ・カルヴァーリョを中心に、ファビアーノ・サレックとシルヴィオ・カルヴァーリョが集まって結成された。精力的な活動で、翌2001年にはファースト・アルバムをリリース。しかもブラジル音楽の重鎮シコ・ブアルキが参加し、大きな話題となった。またジルベルト・ジルやカエターノ・ヴェローゾなど一流アーティストしか参加できない『サンバ・ソシアル・クラブ』にも招待され参加。サンバの名曲「ダ・メリョール・クアリダチ」と「トウ・ヴォルタンド」を演奏、収録した。また演奏だけではなく、その理論的な知識や経験をアメリカ合衆国インディアナ州やミシガン州の大学でショーとワークショップをミックスした講義を行うなど、新たなチャレンジにも果敢に挑んでいる。メンバー全員が歌手で楽器奏者、しかもそれぞれ違った音楽的文脈を持ち、真の音楽的異種交配で生み出されたのが、現在のラバと新しいサンバを代表するバンド、スルル・ナ・ホーダである。